

第2章 深川市の概況

第1節 自然的条件

1 深川市の自然条件

(1) 位置及び面積

深川市は北海道のほぼ中央に位置し、東は常盤山（標高593m）をもって旭川市と境界をわかち、南は音江連峰（標高795m）をへだてて芦別・赤平の両市に接し、西と北は滝川市・妹背牛町・秩父別町・沼田町・小平町・幌加内町と隣接している。

三方を山で囲まれた市の中央部を東から西へわが国第3の長流石狩川が横断し、多度志地区では雨竜川が北から南へ縦断している。

ア 位置

・極 東 東経 142° 14' 24"	・極 南 北緯 43° 37' 51"
・極 西 東経 141° 57' 47"	・極 北 北緯 44° 02' 58"

イ 面積・広ぼう

面積 529.42km ²	東西 22km
	南北 47km

ウ 海拔

元標地点（4条8番） 51.8m

(2) 地形及び地質

深川市は、石狩平野の北端に位置する平坦地を三方から山地が取り巻く地形で、市域の東から北に分布する神居古潭構造帯は、非常に古い白亜紀の地層であり、南の音江連峰は、新第3紀鮮新世末から第4紀まで活動していた円錐形の火山である。

音江町吉住、菊丘では、高位の火山麓扇状地に比高20mの低断層崖が認められ、その南延長の新城峠でも、低位の火山麓扇状地に比高10mの低断層崖が認められ、推定活断層（吉住付近断層）とされている。

(3) 気 候

深川市の気候はやや大陸的で、北海道内の都市のうちでは中庸を示し、年平均気温は7.5度となっており、日最高気温では8月上旬が最も高く、8月の日最高気温の平年値は27.2度であり、1977年10月の統計開始以来最も高い気温は33.9度（1989年）である。一方、日最低気温では2月上旬が最も低く、2月の日最低気温の平年値は-13.5度となっており、統計開始以来最も低かった記録は-29.7度（1998年）である。

一年を通した平均風速は3.2m/sで、南西の風の吹くことが多い。過去10年間の年間降水量の平年値は1,051mm、初雪はおおむね11月上旬にあり、最深積雪の平年値は107cmとなっている。また、4月から5月初めに融雪する。

（資料編 資料8-2 気象記録）

(4) 河川

市内には、中央部を東西に貫流する石狩川及びその支流となる雨竜川ほか多数の中小河川があり、その主なものは次のとおりである。

河川名	1級(km)	普通(km)	市内延長(km)	河川名	1級(km)	普通(km)	市内延長(km)
石狩川	28		28(268.2)	音江川	5.0	5.2	10.2
雨竜川	35		35(177.0)	待合川	1.5	6.0	7.5
堺川	8.1	4.5	12.6	オキリカップ川		6.9	6.9
イチヤン川	0.2		0.2	須麻馬内川	9.9	2.4	12.3
入志別川	7.2	4.3	11.5	多度志川	15.8	6.0	21.8
大鳳川	4.0	3.0	7.0(17.8)	幌内川	4.5	6.0	10.5
オサナンケップ川		7.5	7.5	屈狩志内川	7.9	2.4	10.3
内大部川	14.2		14.2	稲田川	0.7	1.9	2.6
納内幌内川	5.5	4.7	10.2	新音江川	0.4		0.4
堺川方水路	1.8		1.8				

※ () 内、総延長km

(5) ダム

名称	管理者	所在地	貯水量	堤高	堤長
鷹泊ダム	北海道企業局 鷹泊発電管理事務所	深川市鷹泊2404番地先	千t 21,518	m 37.0	m 170.5
上湯内ダム	多度志土地改良区	深川市湯内	857	15.5	115
屈狩ダム	多度志土地改良区	深川市宇摩	200	11.7	60
稲田ダム	空知土地改良区	滝川市江部乙町 西12丁目1番40号	410	17.6	220

2 深川市の社会的現況

(1) 人口と世帯数の動向

深川市の人口は、合併前の昭和30年の42,520人を最高に減少しており、令和4年4月1日現在19,270人となっている。

人口の流出は、若年層に多く見られ、それによる過疎化の進行が高齢化を早めている。

また、世帯数は微減傾向にあり、令和4年4月1日現在10,456世帯であるが、1世帯あたりの人口を見ると平均で1.8人となっており、単身世帯や高齢者世帯の比率は、今後も上昇する傾向にあると考えられる。

(2) 高齢化の進行

深川市における65才以上の人口と全人口に対する割合は、平成17年7月31日現在7,390人(28.5%)、平成21年7月31日現在7,889人(32.6%)、平成25年10月1日現在では8,285人(36.3%)、令和4年4月1日現在8,349人(43.3%)となっており、住民の高齢化がより進行している。

多発する火災、倒壊した家屋からの救助など、大規模な災害発生時の第1次的な相互救済活動は、市民一人ひとりの連携が欠かせないが、過疎化や高齢化という現状は、地域の防災活動の担い手の減少あるいは要配慮者の増加を意味しており、防災知識の普及、災害時の情報提供などに配慮していかなければならない。

また、災害に対して各事業所、地域団体等が一丸となって、防災面の協力体制を進めていかなければならない。

第2節 災害の概要

深川市における古い災害記録については明確に把握できる資料はないが、北海道防災計画資料によると、気象災害については暴風雨（低気圧・台風）による被害が最も多く、以下融雪出水及び冷害凶作が主なものと考えられる。

1 台風及び融雪災害

台風の発生は8～9月にかけて多く、道内に影響するのは1年に2個程度で大雨を伴うことが多い。融雪出水は、4月から5月上旬にかけて多く、市内では数個の中小河川の出水が予想される。

2 冷害

昭和20年から平成25年までの約70年間に、冷害凶作が14回起こっている。

農業技術が進んできたとはいっても、夏の低温は本道の農業に重大な影響をもたらすため、本道農業は気象とのたたかひを通じて発達したといっても過言ではなく、冷害の原因究明のための気象学的研究も相関的に行われてきた。

冷害発生は、夏季正常に発達すべき太平洋高気圧の勢力が弱く、あるいは南偏して北日本に北極から南下する寒冷気団が停滞すること、又は南北西気団の前線が停滞することにより、本道に低気圧の来襲が多くなり天候不順が続くこと等によるとされている。

3 主な災害発生記録

地震被害については、「地震災害対策編 第1章 第4節 深川市における過去の地震被害」に記載する。

(資料編 資料8-1 主な災害発生記録)

(資料編 資料8-2 気象記録)